

地元活性化のためのイベント開催

夢が持てる街づくりに向けて

安来市においては、10月に市長選挙が施行されます。現市長の4年間の市政運営について働く者の代表である議員として総括すると共に、将来に希望が持てる街づくりに向けて積極的に関わっていきたくと考えています。

特に少子高齢化に伴う人口減少は、毎年400人を数え、高齢化率も30.5%と想像を超えたスピードで進み、中山間地域の活性化について取り組んできました。島根県は、本年古事記編纂1300年の節目を迎えたことから、安来市においても、そのゆかりの地である国生みの神イザナミノミコが眠る「比婆山」が私の地元にあることから、協議会を立ち上げ「イザナミ祭」や「神話コンサート」等を企画開催し、戸数100戸足らずの地域に数千人の誘客を得るなど、地元活性化の起爆剤となり得るイベントを成功することができました。今

後も継続的なイベントとして定着させ、地元の元気創出と定住人口増に向け取り組んでいきたいと考えています。

まちづくりは、多くの人に住んでもらう事が最も重要です。そのためにも、将来への夢と希望の創出、働く場の確保・拡大の取組み、勤労者福祉の向上に向け自らの活動はもとより、首長選挙を通じ具体的に動かす市政を実現させていきたいと考えています。



比婆山神話フェスタ「イザナミ祭」

市政だより



安来市

安来市議会
田淵 秀喜 (日立金属)

ホームページアドレス <http://www.hitachi-gr-giandan.jp/>

今号の読みどころ

議員団レポート… (日立市、東海村、ひたちなか市、習志野市)
議員団レポート… (安来市)/幹事長の主張/ご支援お願いいたします
大畠衆議院議員・国政レポート…民主党は結党の原点に立て

P 2~3

P 4

大畠衆議院議員・国政レポート

日立グループ議員団会長 衆議院議員 大畠 章宏

安心して暮らせる社会の建設に全力で取り組みます



危険運転致死傷罪を考える超党派の会

党幹事長室への意見書提出



厳しい逆風の中での民主党政権

日ごろのご活動に敬意を表します。さて、政権交代に対する期待が高かった分、現在の民主党政権に対する厳しい逆風が、相変わらず吹いています。先の民主党代表選挙では、このような状況にある「民主党」が、これまで何を行ない、これから何をどうしようとしているのか、国民の皆さんに御理解いただく絶好の機会と受け止め、代表選挙を実施し、「新しい民主党」をつくり挙党一致体制をめざしましたが、「毎年、毎年、総理大臣をころころ変えるべきでない」とする風潮もあり、一回の投票で、すんなりと野田候補の再選が決定。また、代表選挙を通して、政権交替により出来たこと、出来なかったこと、これからめざす国の形を、国民に明確に示すべしと期待しております。

初心を忘れずに、安心して暮らせる社会建設に取り組む

では、政権交代は、無意味だったのかとなりますが、現在の政治的混乱の要因は、もちろん、民主党政権運営の未熟さにありますが、長年の自民政権時代に築かれた政権維持のための政治土壌、すなわち、国民生活よりも政官業の癒着構造の維持に力を入れ、国の借金を大幅に増加し続けてきたことが挙げられます。これらの癒着構造を改革するために、民主党は、国民参加の「業務仕分け」などを導入し、税金の無駄使いをやめさせ、年金、医療、介護、子育てに対する支援策を充実させました。

また、自民政権下での「競争社会」に向かう「日本」から、欧州型の「共生社会」に向かう「日本」へと転換させることが出来ました。「消えた年金」「消された年金」問題についても取組み、約5,000万件あった未統合記録について、1,600万件について年金記録を統合済みです。今では、年金に関しての国民への通知も届きはじまりました。さらに、新児童手当、高校の授業料無料化や医療制度改革も行ないました。

民主党は結党の原点に立ち返り、初心を忘れずに、前進すべきです。私も、働く皆さんのと一緒に、安心して暮らせる社会建設に全力で取り組みます。

民主党は結党の原点に立て

「近いうちに総選挙」一致結束して臨戦態勢へ



日立グループ議員団幹事長 橋本市議会 (日立AP橋木) 千葉 正弘

先般開催された日立グループ議員団総会において引続き幹事長を拝命致しました。日立グループの組合員及び勤労者・生活者の代表として、議員団一同、その役割と責務を果たすべく全力を尽くしてまいります。関係各位のご支援とご協力をよろしくお願い致します。

大畠再選へ力強い支援を

し「国民の多くは今も消費増税法に反対」と明記し、首相問責決議案提出に同調し可決してしまいました。消費増税に同調しておきながら、総理大臣に責任を問う今回の自民党の行動は、自己否定以外のなにものでもないと感じます。

さて、「近いうちに民意を問う」ことが話題になっています。党の代表を誰にするかということに時間を要しましたが、新執行部・改造内閣のもと民主党が一致結束を図れる状態を作っていたきたいと思います。

なんとしても大畠章宏の再選を

解散総選挙の時期はまだ見えませんが衆議院議員の残任期を考えれば、いよいよ臨戦態勢と言わざるを得ません。我が会長、大畠章宏衆議院議員(茨城5区)の再選をなんとしても果たさなければなりません。経産大臣及び国交大臣を務めた経験を、私たち国民のために是非とも生かしていただかなければなりません。

日立グループ議員団も精一杯の協力を致しますが、皆様方の力強いご支援をよろしくお願い致します。

きびしい政権運営

2009年に誕生した民主党政権ですが、その運営はいよいよ厳しい状況となってきました。7月には、民主党の中で消費税増税に賛成出来ない人たちが離党し、民主党は分裂してしまいました。

自己否定の自民党

今国会では、社会保障と税の一体改革を進めるため、民主・自民・公明の3党合意によって、消費税増税が決まりました。ところが3党合意をしたはずの自民党は、参議院において、野田首相に対

第23回参院選 電機連合組織内公認候補

4 POWER to JAPAN っのチャレンジ

石上としおさんを応援しよう!

- 1 電機産業の活性化による「働く職場の元気づくり」
- 2 「仕事と生活の調和」の実現による「家庭の絆・笑顔づくり」
- 3 地域ニーズにあったサービスの実現による「地域の安全・安心づくり」
- 4 国際社会の安定に貢献する「地球の未来づくり」



日立グループ議員団所属議員のそれぞれの取り組みを紹介します

大甕駅周辺地区整備計画と新交通導入事業

都市機能が充実したまちづくりに向け 市政への意見反映に努める

日立市議会
白石 敦 (ICS)

市政だより



日立市の南の玄関口としてJR常磐線大甕駅があります。この大甕駅周辺地区は、東側に多様な先端産業の企業等が集積し、西側には教育・研究施設が立地しています。しかし、JR常磐線により東西市街地が分断されていることや、平成17年の日立電鉄線廃線に伴い朝夕の通勤通学時間帯には東口駅前広場へ交通が集中し混雑するなど、交通結節点としての機能変化が課題となっています。

大甕駅周辺地区整備にあたっては、交通結節機能の強化、駅利用利便性の向上、東西市街地の一体化による、まちの活性化を図るため、新交通(BRT:バス高速輸送システム、Bus Rapid Transitの略)導入事業と連携した都市基盤施設整備の取り組みが進められています。

旧日立電鉄線跡地をバス専用道路として活用する新交通(BRT)導入事業は、第1期として平成25年3月に日立港再開発地区から大甕駅までの運行が暫定供用開始されます。その後は段階的に事業を進め、平成32年度を目途に日立港再開発地区から日立駅までの約12.4kmを整備完了させ全線供用する計画となっています。新交通の導入は、定

時性・速達性が確保されるとともに高齢化等、社会環境の変化に対応した新たなまちづくりを牽引する交通システムとして期待されています。

民主クラブとしては、引続き、市内の渋滞緩和のため、円滑に移動出来る交通ネットワークの構築と都市機能が充実したまちづくりに、積極的に市政への意見反映に努めてまいります。



旧日立電鉄線跡地をバス専用道路として整備中

小中学校の教室に扇風機を設置

将来を担う子どもたちの 学習環境を改善

東海村議会
越智 辰哉 (日立支部)

村政だより



地球温暖化による夏の猛暑傾向が続く中、子どもたちの熱中症対策として、学校の教室に扇風機を設置する自治体が増えています。こうした状況の中、東海村では平成24年度の新規事業として、教室の天井に各4台の扇風機を設置する事業(4,680万円)を予算化しました。

年度当初は、子どもたちが教室を利用しない夏休みの一斉取り付け工事が計画されていました。そこで、役員関係課や学校関係者にはたらきかけを行ない、受験を控えた中学3年生の教室から順次取り付けを行ない、工事着手の前倒しを図るよう提案しました。その結果、6月末から取り付け工事が開始され、中学校173台、小学校547台の設置が完了しました。

今回の扇風機設置によって、教室の温度が約2℃減少する効果が見込まれるとのことで、夏場における子どもたちの学習環境を改善することが

出来ました。今後も、ハード面だけでなくソフト面も含めて、将来を担う子どもたちの教育推進に努めていきます。



教室の天井に設置された扇風機

平成24年度勝田駅東口再開発事業完了

元気なまちにぎわいの創出と 商業活性化に取り組む

ひたちなか市議会
深谷 寿一 (ルネサス那珂)

市政だより



平成19年度より新たな計画のもとに施行してきた、勝田駅東口再開発事業が、施行区域面積約1.5ヘクタール、事業費約66億円を費やし平成24年6月に完了しました。

本事業は、平成6年に決定された都市計画(施行面積・事業費等)を大幅に見直し民間事業者の活力を積極的に活用することにより短期間で事業を完了することが出来ました。

勝田駅東口再開発事業は、勝田駅東口の交通結節点機能の大幅強化、市民ギャラリーや憩いの場を配置することで、市民の方々が憩い集れる空間を整備するなど、ひたちなか市の玄関口にふさわしい都市空間の形成を目指してきました。

具体的には、駅前ロータリーの通行動線、乗降(バス、タクシー乗り場)・駐車場の整備・I街区にマンション、商業・業務施設、市民交流センター(ふれ愛ひろば・市民ギャラリー)の建設、II街区にホテル、公共駐輪場を建設しました。

日新クラブ議員団は、本事業が一つのきっかけとなり元気なまち、そして人口増と、にぎわいの創出

となるようなまちづくりを行政にはたらきかけていきます。

整備され、活気づいた勝田駅東口駅前ロータリー



公共施設再生の取り組み

老朽化した施設のあり方を審議 住民合意に向け活動していく

習志野市議会
帯包 文雄 (産機システム)

市政だより



習志野市では、平成20年3月に公共施設の状況について、ハード面、ソフト面から多角的にその実態を明らかにした「習志野市公共施設マネジメント白書」を公表し、その中で、建築後30年以上を経過する施設が約60%と、全国的にも老朽化が進んでいる実態など多くの課題が明らかになりました。

さらに、その後の試算では、今後25年間に必要となる施設建替え経費は約1,000億円、平均すると毎年約40億円の事業費が必要になる一方、過去の実績や、今後の財政状況を分析すると、公共施設建替えに充てられる予算は約20億円となり、現在保有している公共施設は、約50%しか建替え出来ないという厳しい試算結果になっています。

平成23年3月末には「公共施設再生計画策定に対する提言書」をまとめ、平成24年5月には、提言書の内容を踏まえた、市の考え方をまとめた「公共施設再生計画基本方針」を公表しています。そし

て、個別の公共施設についての建替え時期や統廃合を含めた再編計画を「公共施設再生計画」として平成24・25年度の2年間で取りまとめます。

このことを受けて、議会では、公共施設の老朽化に伴う建替えを含めた施設のあり方を調査・検討のため、平成23年6月に「公共施設調査特別委員会」を設置し、審議・答申を出すべく取組んでいます。

今後は、住民合意が大きな課題であり、手順を踏まえた根回しは不可欠であると考えています。



市議会でも施設のあり方を見直す